



足跡をしるす

私たちは、奉仕するたびに、
持っているものを与えるたびに、
優しさと思いやり、
変化と希望をもたらしています。

そして私たちはふれあう人の心に、
奉仕する地域社会に、共に分かち合う世界
に、足跡をしるしています。



ファブリシオ・オリベイラ

2024-2025年度
ライオンズクラブ国際会長

奉仕に命を吹き込む

「ブラジルは世界の”肺”です」。ファブリシオ・オリベイラに、彼の母国について尋ねたら、こんな答えが返ってくるだろう。緑に覆われた大地と、それを縁取るターコイズ色の海岸線。その中の小さな町で、起業家精神旺盛な布生地商の息子として、ファブリシオは生まれた。

18歳の頃には、すでにこの家族経営の商店の一員として、平日は勉学に励みつつ、週末は商売のため各地を駆け回った。若い時から常に結果重視だったというファブリシオ。

「昔から仕事は早いほうです」と笑顔で振り返る。

実業家として絶好調の22歳の時に、アマリレスと結婚。二人が育ったカトレドホシャは四季のない熱帯気候だが、ファブリシオ・オリベイラは全天候型、オールラウンドな男だった。

ビジネスマンとしては、数々の取引を成功させ、前途も洋々。市民としても、複数の公職に任命を受けるほどの成功を収める。しかし、何か物足りなかった。

そんな彼に転機が訪れたのは、1985年のある夜だ。

当時ファブリシオとアマリレスは、週末ごとにさまざま社交行事のため集まる友人グループの一員だった。メンバー数人がすでにライオンズクラブの会員になっており、ほどなくオリベイラ夫妻にも入会の誘いがあった。

断ることはとてもできなかった、とファブリシオは言う。「親しい友人でしたから。それに、ライオンズには特別な何かがあると感じました。お世話になった地域社会に恩返しをするチャンスかもしれないと」

ファブリシオ・オリベイラとその夫人をライオンズに出会わせたのは、ほんの一度のシンプルな誘いだった。

「こうしてライオンになったことが、すべての始まりでした」とファブリシオは振り返る。

招きに応えた。社会奉仕への決意を胸に動き出した。そしていよいよ、小さな村カトレドホシャの若者が、それまでの人生で学んだことを、新たな歩みに活かす時が来た。ライオンとしての歩みだ。



”ライオンズには特別な何かがあると感じました。
お世話になった地域社会に
恩返しをするチャンスかもしれないと”





すすんで前向きに生きる極意

「自然そのままの美しさがあります」。ファブリシオはブラジルについてこう言う。「それが素晴らしいのです」

しかし彼がライオンズに入会した当時、地元には清潔な用水を得られない地域があった。そこで、ファブリシオはクラブとともに行動を起こした。

こうして、地元の貧しい地域に浄水を届けるための手作りのセラミックフィルターを購入するため、必要な資金を集めたことが彼の初めての社会奉仕事業となった。この事業は地域社会に水だけでなく、それを切実に必要としていた子供や家庭に、健康、福祉、幸せをももたらしたのだった。

「素晴らしい経験でした」。ファブリシオは回顧する。「機材を持ち込んだ時、人々の喜びと笑顔が目に見えてきました。奉仕活動がいかに大きな力を持つのか、ライオンズがいかに重要な存在なのかが理解できました」

その時から振り返ることはなく、ただ前に突き進んだ。奉仕が彼を目覚めさせたかのように。

ファブリシオは、日々のライオンズ活動でも、人生から得た教訓とビジネスマンとして経験を活かしている。そして、与えれば与えるほど、得るものも多いと感じている。



"奉仕活動が
いかに大きな力を持つのか、
ライオンズがいかに重要な存在なのか
が理解できました"

「多くのことを教わりましたし、今も学び続けています」と彼は言う。「ライオンズは私の第二の大学です」

ライオンズはまた、ファブリシオにとって第二の家族ともなった。大きな可能性を秘め、他にはない前向きさにあふれる、グローバルな家族。そんな家族の先頭に立ち、リーダーを務められることを、彼は光栄に思っている。

「ライオンズは、多くの地域社会と、多くの人の人生を、大きく変えてきました。私の人生も例外ではありません。」

ファブリシオが新会員の勧誘と新クラブの結成に力を入れる理由はここにある。自分が感じているのと同

じやりがい、同じ充足感を、より多くの人にも体験してほしいからだ。

ファブリシオ・オリベイラは、これからもライオンであり続ける。また、実業家としての視点から考え続ける。だからこそ、彼は確信する。物事の主導権は、それを掴む者のところにやってくる、と。私たちには、偉大なことを成し遂げる力があるが、同時に偉大なことを成し遂げる責任も負っている、と。

そして、私たちが才能とスキルを地域社会の変革に役立てれば、世界に永続的な足跡を — 私たちの足跡を — 残すことができる、と。

2024～2025年度 会長メッセージ

足跡をしるす

ライオンズは誰もがリーダーです。

そしてリーダーは知っています。人々が強い信念を持って、ともに行動すれば、コミュニティ全体が動き、変わることを。そして、その生き生きとした元気な地域社会をつくりだす過程で、私たちは足跡をしるしています。

私たちリーダーは、クラブを通じて、そして奉仕という使命を通じて、人と人を結びます。コラボレーションを促すことで、誰もが無理だと言うことをやってのけます。イノベーションを採り入れることで、大胆な奉仕のビジョンを実現します。志のある人を奉仕に誘うことで、ライオンズとして一緒に活躍するチャンスを与えます。そして、新会員を一人増やすたびに、奉仕の未来に足跡をしるしているのです。

力を合わせて、私たちは助けを必要としている人に手を差し伸べます。ともすればかき消されてしまう声を、大きくして届けます。ライオンズにしかできない方法で、人の暮らしを変えます。こうして出会う人たちの人生、奉仕する地域社会に、私たちはいつまでも残る足跡をしるしているのです。





ともに私たちの 足跡をしるす

毎日がライオンズとしての足跡をしるすチャンスです。ですから、行動を起こしましょう! 以下の国際方針に目を通し、ライオンズを、そして私たちが奉仕する地域社会を強化するために、どうやってこれを実践していけるか、考えてみてください。

もっと多くを与えるために成長しよう

奉仕の必要性が高まるに伴い、私たちも成長する必要があります。新会員を招き入れ、新クラブを結成することによって、ミッション1.5の目標を達成しましょう。私たちの地域社会に、より多くのライオンズによる、より多くの奉仕をもたらし、世界で年間10億人への奉仕を実現しましょう。

力を合わせてもっと強くなろう

私たちのグローバルな財団は、ライオンズの奉仕を支援し、世界に持続的な変化をもたらせるように活動しています。ですから、いつでも、どこでも、力を合わせて奉仕する態勢を整えられるよう、LCIFをサポートしましょう。

次のステップを踏み出そう

クラブと奉仕を拡大し、ライオンズとしてもリーダーとしても成長するため、リーダーシップ開発の機会を最大限活用しましょう。クラブ内で、地域社会で、奉仕を前進させるためリーダーシップを発揮する新たな機会を探してください。

地域社会でのイメージアップを図ろう

ライオンズの活動は非凡なものです。優れたマーケティングやPRを行うことで、ストーリーを伝え、地域社会の耳目を集め、イメージを向上することができます。ですから、あなたの奉仕をPRして、ライオンズの仲間に加わるよう皆を誘いましょう。

小児がんと闘う
青少年にとって、
ライオンズの
ボランティアは、
実在する
スーパーヒーロー。





偉大な社会奉仕の足跡

ライオンズは模範を示します。これまでも、これからも。以下は、あなたが奉仕活動における真の可能性を解き放ち、仲間のライオンズの可能性を引き出す上で役立つ、成功の秘訣です。

つねに先回りして行動を
地域社会には困っている人がたくさんいます。助けを求められる前に行動すべきです。こちらからニーズを見つけ出し、行動を起こしましょう。この姿勢こそが、地域社会の期待に応えるために必要なものであり、ライオンズが他の団体とは一線を画すゆえんでもあります。

あなたのビジョンを形に
誰もがピンチだと思うところに、私たちはチャンスを見出します。ですから、奉仕のビジョンを描いてください。そのビジョンに周囲の人を巻き込んでください。その上で、大胆に考え、毅然として行動し、奉仕事業を形にしましょう。

よい結果に目を向ける
プラスの結果に目を向ければ、最大の成果が出ます。地域社会にどんな変化が必要なのかを見極め、その実現に向けた計画を立て始めましょう。





We Serve

足跡をしるす

未来を形作ろう